

はじめに

名古屋大学大学院医学系研究科長

高橋 雅 英

名古屋大学医学部・医学系研究科（鶴舞地区）では、5年ごとに「学部教育」、「大学院教育」、「研究」、「診療」、「業務運営」の自己点検・評価を行い、それに基づいて外部評価を実施しています。平成24年4月に私が研究科長に就任後、副研究科長を中心に自己点検・評価検討ワーキンググループを発足させ、若林俊彦主査の下、約1年間にわたり自己点検評価報告書の作製に取り組んできました。「学部教育」については藤本豊土副研究科長、「大学院教育」は大野欽司副研究科長、「研究」は門松健治副研究科長、「診療」は長谷川好規副研究科長、「業務運営」は若林俊彦副研究科長をそれぞれ責任者として検討チームを作り、過去5年間の取組・実績などを膨大な資料に基づき解析し、自己点検評価報告書の完成に至りました。

この5年間の特徴ある取組としては、学部教育においては研究マインドを有する学生の養成をめざし、東京大学、京都大学、大阪大学などと連携して学生研究会の活動を支援していることが挙げられます。また、6年生を3か月間海外提携校へ派遣する臨床実習についても、年々希望者が増加しており、グローバルな人材育成に大きな役割を果たしています。大学院課程では、早期に大学院に入学し研究をスタートさせることを目的とし、MD・PhDコース、卒直後コース、次世代医学研究者養成コースなどを設け、経済的なサポートも開始しました。修士課程医科学専攻医療行政コース（YLP: Young Leaders' Program）は設置後10年が経過し、アジア地域の医療行政官の育成コースとして国の内外で高い評価を受けています。研究については科学研究費補助金を含む研究費全体の獲得が増加しており、それに伴う間接経費の増加が財政基盤の確立に寄与し、大学院医学系研究科における様々な活動を支えています。今後も大型研究費を獲得する力をさらに高めていくことは最重要課題の1つです。また、研究力を支える附属医学教育研究支援センター（分析機器部門）の充実や、臨床教育の充実のための附属クリニカルシミュレーションセンターの整備も行ってきました。医学部附属病院では診療報酬がこの5年間急速に増加し、人材確保を含め、病院機能の充実と高度化のために積極的な投資が行われてきています。

外部評価委員会では、以上のような成果を含め、各分野の到達点と課題について担当副研究科長からそれぞれ説明を行いました。外部評価委員の先生方との活発な質疑応答が行われ、本研究科にとって非常に有意義な機会となりました。この5年間の取組については、全体として好意的な評価をいただきましたが、各項目について今後の発展のためのいくつかの貴重な改善点・提言もいただきました。これらを踏まえ、さらに活力ある医学部・医

学系研究科を実現すべく努力する所存です。

お忙しい中、外部評価委員を快く引き受けていただいた 5 名の先生方には心より感謝申し上げます。ここに、外部評価委員の先生方の評価書とともに自己点検評価報告書を皆様にお届けいたしますので、ご一読いただき、ご意見を賜れば幸甚に存じます。今後とも、名古屋大学医学部・医学系研究科の発展のため、力強いご支援をいただきますよう心よりお願い申し上げます。

平成 25 年 10 月

名古屋大学大学院医学系研究科長

高橋雅英